

NO.	テーマ等	人権教育の視点等
(12)	これからの生活を考える	3－(1)－イ 個性・能力の伸長 4－(1)－ア 学習者の権利と責任の重視
	【活動対象領域等】 家庭基礎	【対象学年】 高等学校 1・2年

1 ねらい

- (1) 将来の人生において、さまざまなライフコースやライフイベントが予想される中、ワーク・ライフ・バランスを実現する大切さを認識し、長い人生をどのようにデザインするかを主体的に考える。
- (2) 家庭を築いていく中で、パートナーが互いにワーク・ライフ・バランスを実現するための視点を身につける。

2 指導にあたって

- (1) 教育活動全体において、次代を担う子どもたちが人権の尊重や男女共同参画への理解を深め、長期的展望に立って、将来設計を行えるような教育が必要である。その中でも、高等学校における教育活動は、成人を間近に控え、生徒によっては最後の学校教育となる。そこで、「ひょうご男女いきいきプラン2020（第3次兵庫県男女共同参画計画）」に示されているワーク・ライフ・バランスについての意識を向上させる。
- (2) 超高齢社会となり、社会情勢も変わってきている。大人でさえ先行きが見えない中、成人を間近に控えた高校生が想像する未来像の多くは、自分の兄姉、父母、祖父母のライフコースである。そこで、より多くの資料をグループで読み解き、その後、発表をし合うことにより、幅広い知識を身につけ、多様なライフコースを理解し、自身の未来像を広げさせる。

3 指導計画（全3時間）

- (1) 第1次 「これからの生活を考える」[2時間] （＜本時＞1／2時）
- (2) 第2次 「自分の一生を自分らしく生きるために」[1時間]

4 備考

第1次の第1時は、エキスパート活動（9 参考資料 参照）を丁寧に行い、より学びを深めさせる。第1次の第2時は、ジグソー活動、クロストーク活動を行い、生徒のより良い変容に結びつける。第2次は、人生におけるさまざまなリスクに対して、どのような備えをしておけば良いかを考えさせる。

5 展開例

第2学年 家庭基礎学習指導案

(1) 本時の目標

あらゆる世代の人が、人生の段階やその実態に応じて、仕事と生活のバランスをとることが重要であることを理解する。

(2) 準備物

教科書、資料集、

厚生労働省『はたらく』へのトビラ～ワークルール 20 のモデル授業案～、

ワークシート、資料プリント①、資料プリント②

(3) 展開

学 習 活 動	教 師 の 指 導 ・ 支 援 等	学 習 評 価
1 過去に学んだ本テーマに係る学習内容の確認をする。	□男女共同参画社会、家族に関する法律、労働、子どもとの関わり、高齢者との関わり等について、確認させる。 【教科書等】	
将来の生活設計をしよう！		
2 本時のねらいをおさえる。	□将来の生活について、ワークシートに考えを記入させる。 ※なぜそのように考えたのか理由も考えさせる。 【ワークシート】	
3 人生の段階やその実態に応じて考える。	□人生段階A～Dごとに5人×4班に分かれて、資料（各人生段階で起こりうるライフイベントや、そこでもっておきたいワーク・ライフ・バランスの視点「休養」「親の介護」など）をもとに班で話し合わせる。 【知識構成型ジグソー法「エキスパート活動」】 □今までのライフコースの例、これからのライフコースの例等の資料を参考に示す。 【資料プリント①②等各種資料】	[表現] (発表) ・各人生段階のライフイベント等を踏まえて、自分の考えを表現することができる。
4 将来の生活を再考する。	□仕事と生活は、単なる時間のバランスではなく、さまざまな条件が複雑に関係していることに気づかせる。 ※働くことの意義、健康、お金、家庭など、「ライフイベント」の選択状況	[知識] (ワークシート) ・ワーク・ライフ・バランスについて理解することができる。
5 人生の各段階におけるワーク・ライフ・バランスを理解する。	□将来の生活について、ワークシートを見直し、話し合いをふまえて考えたことを書き加えさせる。 【ワークシート】 □人生の段階やその実態に応じたワーク・ライフ・バランスの視点が重要であることを理解させる。	

		一人一人が自立すると共に、家族が協働して生きる重要性を理解し、将来の生活を再考することができたか。
6 振り返りとまとめをする。	☐ 自分の一生を自分らしく生きるために、人生各段階の視点を踏まえ、一生を見通したワーク・ライフ・バランスについて、次時に考えていくことを予告する。	

Ponit

人生を多様な視点でデザインし、仕事と生活のバランスを取る上で必要なさまざまな条件を理解するために、人生段階を四つに分けたエキスパート活動を通した深い学びに挑戦する。

6 学習資料 1 (ワークシート)

生活をデザインしよう (1) これからの生活を考える

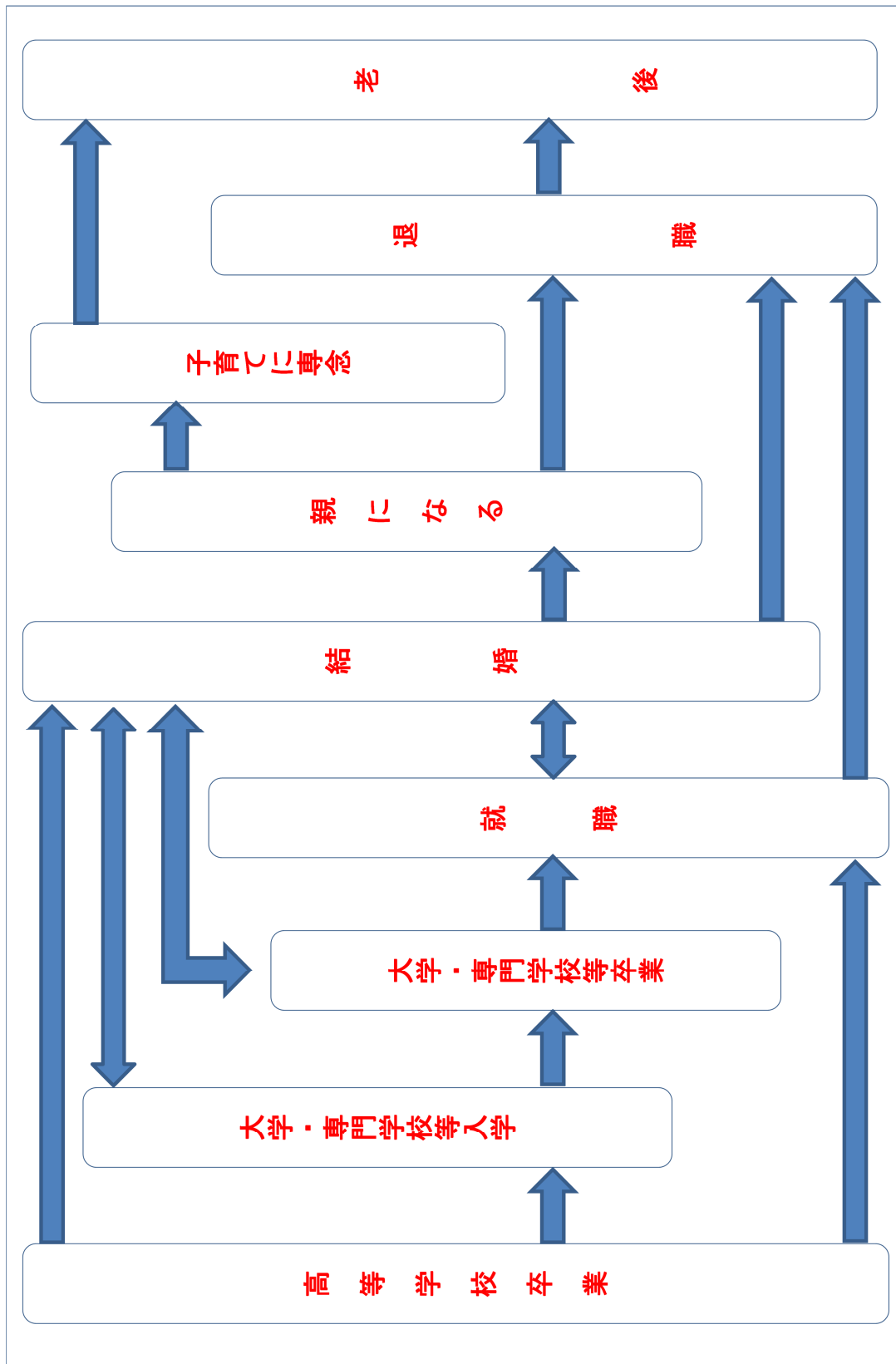
人生のマップを描こう

10 年後から 50 年後の自分を想像してみましょう。どこで、だれと、どのような生活をしているのでしょうか。質問に答えながら具体的に考えましょう。

現在 () 歳 青年期	○これからの人生をどのような目標をもって生きたいですか。優先順位をつけましょう。 () 高収入を得られる仕事に就いてお金持ちになりたい () 自分の才能や個性を生かして、やりがいのある仕事に就きたい () 円満な家庭を築いて、家族との時間を大切にしたい () 自分の趣味や興味のあることを楽しみたい () 高い社会的な地位について評価されたい () 家族や友人から信頼されて、よい人間関係を保ちたい
A 10 年後 () 歳 青年期 〈予想される出来事〉 就職、結婚、 親になるなど	○どこで何をしているのでしょうか。(どんな仕事をしていますか?) ○誰と一緒に、どのような暮らしをしているのでしょうか。 ○結婚するとしたら、理想の結婚相手はどのような人でしょうか? ○仕事と自分の生活を 100%で例えると、どのようなバランスになりますか。 仕事 () % 自分の生活 () %
B 20 年後 () 歳 壮年期 〈予想される出来事〉 結婚、 親になるなど	○どこで何をしているのでしょうか。(どんな仕事をしていますか?) ○誰と一緒に、どのような暮らしをしているのでしょうか。 ○結婚したら、家事や育児をどのように分担したいですか。自分の考えに○をつけましょう。 () 夫婦で協力して分担する () 主に夫がして妻が手伝う () 主に妻がして夫が手伝う () その他 () ○仕事と自分の生活を 100%で例えると、どのようなバランスになりますか。 仕事 () % 自分の生活 () %

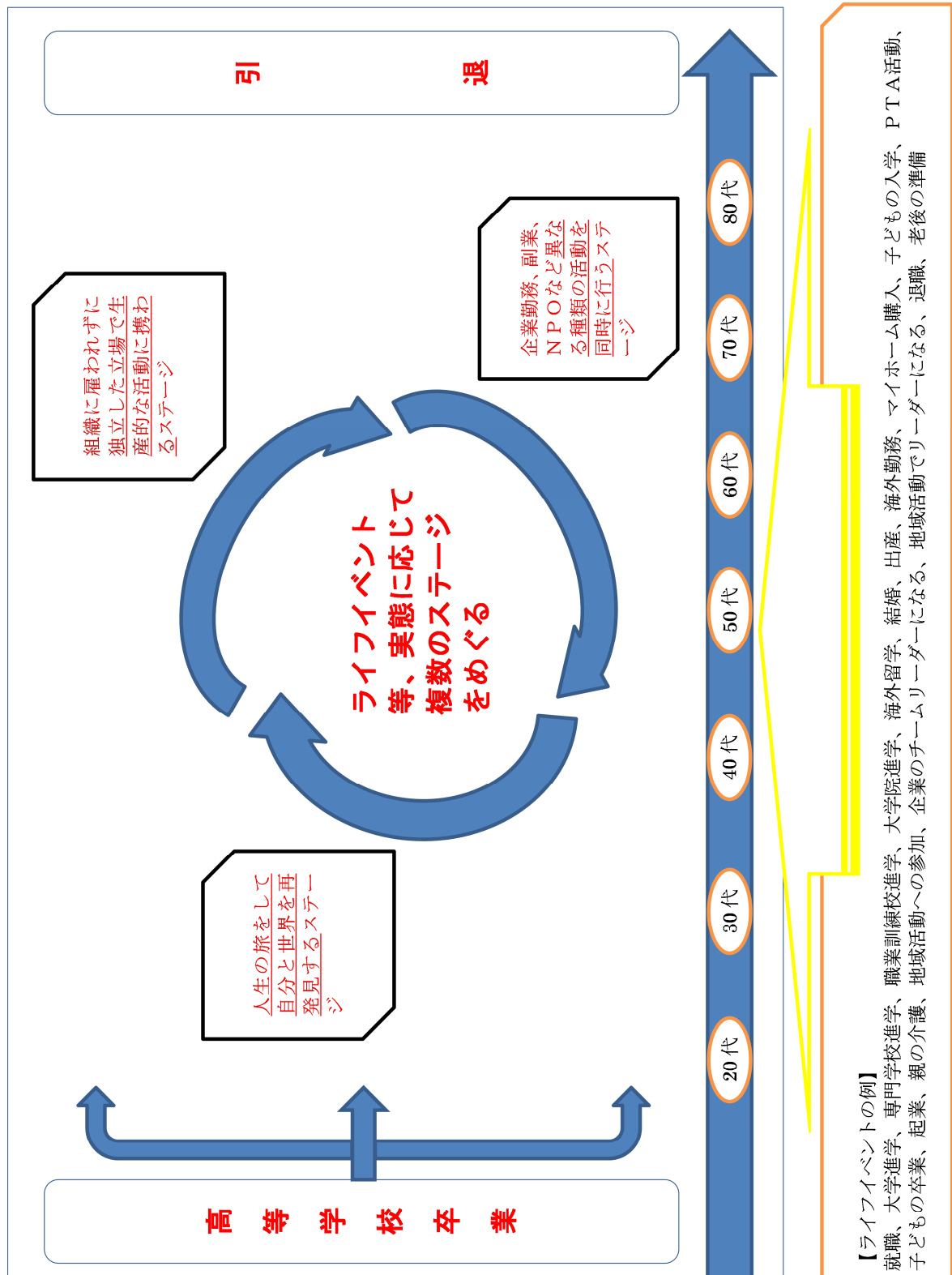
7 学習資料2（資料プリント①）

【今までのライフコースの例】



8 学習資料3 (資料プリント②)

【これからのライフコースの例】



9 参考資料

「知識構成型ジグソー法」

「知識構成型ジグソー法」について

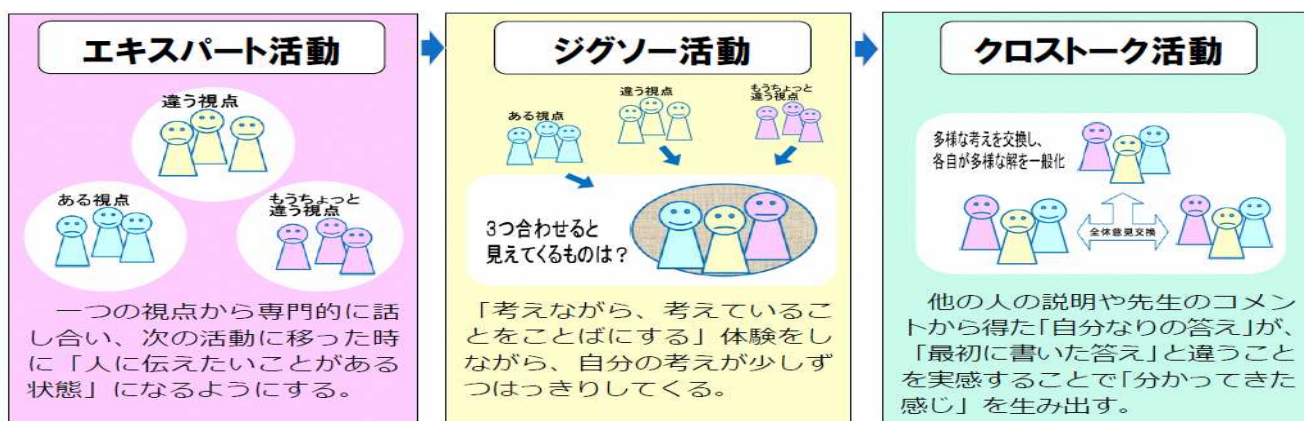
「知識構成型ジグソー法」は、人が本来もっている対話を通じて自分の考えをよりよくしていく力を引き出しやすくするための、ひとつの型です。

人は、ある問いについて対話する時、互いの知識を持ち寄り、相手を納得させるために自分の考えをブラッシュアップしながら、それぞれのタイミングで自分なりの答えを作り上げていくので、ジグソー法はこの力を前提として対話の中で生徒たちが自分で自分の答えを作り上げる学びの手法です。

各教科や総合的な学習の時間などにおいて、「知識構成型ジグソー法」を取り入れた授業づくりをすすめ、相互に研究授業を図るなど、「主体的・対話的で深い学び」の実現について考え、話し合い、生徒のよりよい変容にむすびつけていくことが重要です。

「知識構成型ジグソー法」を取り入れた授業づくり

- ① 一人一人が、まず自分で考えて「問い」に対する答えをもつ。
- ② 「問い」に対する答えを得るために必要な部品（ある視点）の担当グループに分かれ、資料をもとに話し合う（エキスパート活動）。
- ③ 各エキスパートグループを解体し、一人ずつ組み合わせて新たなグループを作り、意見を統合し問いに対する新たな答えを出す（ジグソー活動）。
- ④ 各ジグソーグループで考えた自分たちの答えを全体で交換し合い、一人一人が、いろいろな答えから自分で最も納得のいく「言い方」「表現」を拾って、納得できる答えにたどり着く視点を得る（クロストーク活動）。
- ⑤ 「問い」について、最後にもう一度自分で答えを出す。



※「東京大学CoREF」ホームページより 一部改変 (<http://coref.u-tokyo.ac.jp/archives/5515>)

